

どこかの、誰かのために役立つ税金

福岡教育大学附属福岡中学校 3年 平井 雨響

二〇一九年夏、私は語学留学のためフィリピン・セブ島を訪れた。初めてのフィリピンであったため、見るものすべてが新鮮で、町中の様々な物に興味を持った。途中、とても大きな橋を渡る機会があった。それは他の橋に比べてまだ新しそうだった。日本でもなかなか見かけないその大きな橋に興味を持ち、帰国後調べてみたところ、「第二マクタン橋」という名前の橋であった。第二マクタン橋は、マクタン島とセブ島を繋ぐ第一マクタン橋の交通量の増加と耐久力の低下に伴って、一九九七年に建設された。そしてそれは、日本の政府開発援助、通称ODAの援助を受けて建設されたものだった。政府開発援助の予算の一部は、私達の納める税金が使われている。私は日本の一国民として誇らしかった。私達日本人の納める税金によって地元住民が快適に過ごせているのだ。フィリピンでのこの活動は、橋の建設による交通渋滞の緩和だけでなく、フィリピン第二の都市圏であるメトロセブの経済活動の拡大にも寄与した。地元住民にとって、生活に欠かせないライフラインの一つになったのだ。

政府開発援助によって行われている内容には、飢えや貧困などに苦しみ、十分な食料や飲み水が得られなかったり、教育や医療を受けられない人々を抱える国や地域への開発協力を通じ、それらの地域の発展の手助けがある。

しかしこの二〇年でODAの予算はほぼ半分に削減された。日本は財政難の真っ只中で、国民の理解が得られなければ、他国のためにお金を使うことはできない。少子高齢化が進む中、社会保険の充実に予算を充てることを望む声が多いのも当然であろう。近年多く発生している自然災害への対策にもお金が必要である。

ではなぜ、日本は他国の援助を続けるのか。それは、困っている国があるから、である。日本も東日本大震災が発生し、とても困っているときに、一五九ヵ国もの国から支援の申し出があった。支援は寄付や援助物資、医療支援など多岐にわたり、それが日本の復興だけでなく、国民の心をも元気にしてくれたことは言うまでもない。他にも様々な場面で日本も他国の支援を受けている。

諸外国への人道・医療協力だけでなく、今日のグローバル化した世界の中において、他国と協力して、平和で安定し繁栄した国際社会をつくりあげていくことはとても重要なことだと思う。

日本が政府開発援助を始めて今年で六六年になる。この六六年の間に、どれだけの人や国、地域を支えることができたろうか。改めて私はこの活動が素晴らしいものであると思う。全ては税金のおかげなのだ。そしてこの税金は国民一人ひとりの大切なお金であって、これらがどこかの、誰かの役に立っていることを私達はもっと知るべきである。